8) PMD患児の障害度と扁平足の関係について

国立療養所再春荘
上野和敏　境　勇祐
岡元　宏　泉　純治
今西康二　寺本仁郎

*PMD*患児の足の変形については、従来より種々の報告がなされている。足の変形は歩行に際し種々の障害を果たすものである。それに対する調査研究は重要なものであると思われる。我々は、*PMD*患児で歩行平能児を対象に49年から51年まで3年間にわたる調査をおこないました。

方法は、足跡印画法と*X*線写真による横倉氏の方法によりおこなった。

結果は、横倉氏の方法では、形態的扁平足は14名中8名、即ち57.1%に認められた。この結果を49年度の結果と比較してみると障害度では、49年度ではⅠ－1～Ⅰ－3までが、51年度ではⅠ－1が少なくなりⅠ－5が多くなっている。

扁平足の出現では、Ⅰ－2で50%、Ⅰ－5は100%と、前年度よりも、出現率が高い傾向がみられた。又前回扁平足とされた、患児は今回も全員に認められた。新たに扁平足とされた患児は、障害度の進行が認められた。

本症においては、一般に伸筋群が、屈筋群より比較的障害が、強いと言われている。足関節においては、前脛骨筋の筋力低下のために、尖足と内反すると共に扁平足を、来たすと想定される。

＜考　察＞

我々の症例では49年度においては扁平足の出現が40%、51年度では57.1%、障害度の進行と共に扁平足の出現率が高くなっている。正常人と比較してみると、患児と同一年台の小学生の扁平足出現は名倉らによると44.5%、中学生においては59%に認められる言われている。つまり全体の頻度としては、正常人との差異は認められないが、筋の萎縮、筋力低下によるものと思われ、*PMD*患児に認められる足の変形の一つと考える。

9) PMDの歯牙の咬合と咬合圧に関する研究

弘前大学医学部
石川富士郎*　矢野文雄
三條　勲*　森山武雄**
木村　恒
*岩手医科大学歯学部歯科矯正学講座
**国立岩木療養所

検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

PMD 患児の足の変形については、従来より種々の報告がなされている。足の変形は歩行に際し種々の障害を果たすものである。それに対する調査研究は重要なものであると思われる。我々は、PMD 患児で歩行平能児を対象に 49 年から 51 年まで 3 年間にわたる調査をおこないました。